福岡県　ＧＨ第２敬和苑
ユニット阿蘇

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
【Ⅰ　理念に基づく運営】					
１．理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	安全で安心できるケア 温かいまなざし、言葉のケア 敬う心で和やかな暮らしを提供すること		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝夕の申し送りで唱和している。広報に載せる。	○	勉強会で反省及び実践したことを発表し検討する。
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	広報を出して（1/2ヶ月）理解を求めている。	○	毎月できればよい。
２．地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	同敷地内に足湯があり地域のみなさんが移り変わり来てあるので、できるだけふれあっていけるようにしている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	月に一度はふれあい、交流できるようにしている。 ボランティアの慰問。	○	地域の方々と老人会、行事、活動にもっと参加したい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	足湯の環境を整え清潔に保ち、気持ちよく過ごせるようにしている。（毎朝・夕の掃除、温泉の開閉など。）		

福岡県　ＧＨ第２敬和苑
ユニット阿蘇

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
３．理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	地域との交流、利用者の感受性、理念が浸透しているか、笑顔で元気があるか、特に利用者の変化には良く気がついている。	○	外部評価について話し合う時間を持ちたい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	２ヶ月毎に状況をアルバムにして説明して報告をし、地域の方々の行事予定を聞き参加できること、支援して頂くことなどを話している。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のみ参加して頂いている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、主介護者が明確であり、家族で行っている。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関適法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	言葉での虐待にならにようにしている。 ①目上から話さない ②はじめは大きな声にならないように	○	尊敬語で話したいが、利用者との会話でうまくかみ合わない。
４．理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	安心されるようにできるだけ詳しく説明をしているし、質問には正確に答えている。		

福岡県　ＧＨ第２敬和苑
ユニット阿蘇

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とのコミュニケーションの中で、不満苦情等を聞き取り、寮母会議等で報告しあい検討している。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時にはその都度、状況暮らしぶり等を報告し、心身の状況等は個別に連絡し２ヶ月に一回苑だよりとして発行している。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、家族からは随時、不満や不安等は電話連絡等で受け付けている。		意見や電話での不満、苦情があった場合は書面に残し検討していく。
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の寮母会で意見を出し合い業務会議等で報告する。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事などでは自発的に公休の職員からのボランティアは当たり前に行動できているので、家族の状況や緊急時には誰でも勤務の変更などできている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	決められた資格者が配置される必要があるとき、退職された後の補充のときに心配するが利用者の状況をみて、その為の影響があるかを観察している。	○	移動してもダメージを防ぐ為に何をどうしたら良いか検討する。

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	当施設で働くことが楽しく意欲が持てるように話し合い中心にしている。		介護職未経験者が入社。若年者で数回転職しており、2日目で辞めたいと言う。職員全員で頑張るように説得。どこで働いても通用ようするようになるまで皆で見守り、指導することで納得し、今も在籍中である。
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	差別など普段から考えなければならないような環境ではない。常に利用者、家族の立場になって活動し、議論している。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体本部で一か月1回勉強会、グループホーム内で1か月1回勉強会、福岡県社会福祉協議会、福岡県高齢者福祉課、介護保険広域連合柳川支部等での講演、研修に参加している。		講演、研修参加後は報告書作成する。内容についても毎月1回、母体本部で報告の機会を設け職員の前で発表する。聞いている職員も勉強会ノートに筆記し感想を書き提出する。グループホームでは翌日申し送りノートや朝礼時に報告することで全職員が把握し学ぶ機会となっている。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行っていない。 研修会や指導会のおりに会話を持っているのみ。		他の施設（グループホーム）とも交流出来るよう検討する。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	他職員から情報が入ったら本人と話をしたりそれとなく声かけしてねぎらう。職員の動作顔色など観察している。		職員同士で出来るだけ悩みを言い合ったり聞いたりしている。（カラオケやバーベキューなど）
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	常々朝礼（毎月1日）勉強会の時に指導がある。		入居者で危篤状態になられ病院受診するも本人、家族共、入院拒否された為グループホームで2週間の手厚い看病した。現在、回復して以前と同じ生活をしている。職員の利用者を思う気持ちと努力の結果だと自負している。

福岡県　ＧＨ第２敬和苑
ユニット阿蘇

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
【Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前には何度でも見学に来ていただき、不安等があれば必要に応じて体験入所も出来るシステムを設けている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者とは個別に面接し、家族の不安、要望にいつでも応じられる。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族のニーズに合わせ、施設内の他のサービス機関の利用も提供できる。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族に毎月通っていただいたり、一回帰宅して安心してもらったりしている。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に畑仕事をし、収穫した野菜等で漬物の漬け方や料理を学んだりして一緒に作り、食べ、生活を共にする。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を密に行い、苑での行事等にはその都度招待し、参加していただく。		

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と密に連絡を取り両者の要望を取り入れ、よい関係を築いていけるよう努めている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員ではないが今まで配達してもらっていた八百屋さんとの交流をできる機会を持っている。 知人、友人が面会にこられたら歓迎する。 前の施設の方々に知り合いがこられたら会いに出かけたり（兄弟の面会をされたり）		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	職員が一人ひとりの個性を十分に把握し、その人の持ち味を発揮できるよう席替えを行ったり声かけを行ない、支援している。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	途中退苑がいままでにない。		今後、家族との年賀状でのご挨拶等に取り組んでいきたい。母体本部に在宅介護支援センターがありソーシャルワーカーが行政と連携をとりながら訪問等で地域の方の情報収集をし相談等にも応じている。
【Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】 **１．一人ひとりの把握**					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に対して担当者を決めており、目配り気配りし本人の意向を世間話などしながら把握に努めている。本人に確認不明瞭の場合は家族の面会時に意見を伺ったり申し送りや勉強会で検討の場を設けている。		起床時間は本人のペースに合わせて支援している。朝食もその方の体調やペースに合わせ時間、場所もリビングや居室等、配慮し行っている。
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	グループホームと隣接し足湯（無料）を一般の方に開放しているので利用者を引率し利用すると友人、知人とよく出会い、昔話や現況を話す機会となっており介護者も会話に加わりご本人の過去の生活暦や仕事内容を聞き本人の興味の持てるものを検討する情報源となっている。足湯まで誘導できない方もおられ足湯の帰りにでもグループホームに立ち寄って頂くよう声掛けを行っている。		

福岡県　ＧＨ第２敬和苑
ユニット阿蘇

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝夕の申し送りでその日の様子、体調などを記録して読み、詳しく知らせている。個人記録にはもっと詳しく記録している。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	職員のほとんどから意見を聞き、今これからに向けて役に立つことや体力アップになること、この施設で生活することに満足していただけるように家族の意見も聞いて策定している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院等や状態の変化が生じた場合は、本人、家族、医師、看護師、介護者と話し合いを持ちできればサービス担当者会議を開催した上で新規作成を行っている。		できれば三ヶ月で見直したいが、作成できる職員の指導がまだ途中である。
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録とチェック表にも記録してモニタリングに活用している。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	特老（3ヶ所）、有料、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ（2ヶ所）ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽ、居宅、ｹｱﾊｳｽと所有しているので状況によって配慮している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	徘徊で警察・消防、民生委員は運営会議・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ慰問・公民館での老人会行事のときに協力してもらっている。		

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	行っていない。		隣接している有料老人ホームとの話し合いで行事に参加するようにしている。
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要とされる利用者がいない為していない（母体事業所には、居宅介護支援センターや訪問介護事業所もあり協働関係をとっている。）		今後、必要性がでてきた場合は、連携をとり協働を図る。
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医院（3医院）、希望医院（5医院）、緊急病院（3病院）適切に対応している。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	その必要がある方（現在では5名）が専門医院で治療を受けている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同敷地内の有料老人ホームの方に緊急なとき必要であれば看てもらえるようにしているが、全利用者の把握が出来る交流は行っていない。		危篤状態の方を看ていた時、主治医のDr.への状態報告を行い隣接している有料老人ホームのナースより指示を受けて治療した事がある。
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族との連絡は詳しく行い、職員が様子をみに面会に行き、状況を報告し対応している。		利用者が入院された時遠方の家族の方だった為密に電話連絡し頻回に病院に出向き家族へ繋いで報告し便宜を図る。

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と練り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在2名の方の家族と確実に訪れることを想定して、細かに確認をとっている。主治医にも話している。		以前から、状態の変化があっても入院はしないと聞いていた家族がおられ急変状態になった時、家族の希望、本人の希望（職員の推定）職員の希望と対応についてスタッフ全員で終末期を迎えた場合の話し合いを行い、看病にも気持ちが通じていた。
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日常生活の場がグループホームであり「ここが家であり、最後はここで看取ってほしい」と言われる家族がおられるので細かく家族と相談し意思の疎通を図り状態を逐一報告している。		危篤状態になった方を職員の団結とチームワークで、できるだけ苦しまれないように心がけて看病した。
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ほとんどない。		利用者にとっては施設には逆療法になるような方を自宅で生活できるようにしたい。
【Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】 **１．その人らしい暮らしの支援** **（１）一人ひとりの尊重**					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	十分注意しているが、やはり時々寮母会議で取り上げることがある。		寮母会議やその場面で、気がついたときにお互い注意し合えるようにしたい。後で問題になっている。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来るだけ本人がしたいようにしてあげたいことを基本にして介助するように行っている。		就寝、起床は自由。食事、形体、好き、嫌い、お酒も飲んでおられる。
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	第一に心がけている。その方のペースに合わせて。		どうしても全部はかなえられない部分を考え直していきたい。

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
（２）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容はその方にあったようにきつく注文をしている。3名の方は係りつけに行っている。		厚着や薄着が目に余るときや着方が変になっているときなどは、声かけして直してあげる。
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえまではできる方、切り刻みまで出来る方、スープのルーなど混ぜられる方など、出来るだけ多くの方と一緒に作るようにしている。	○	魚の処理、漬物付け、らっきょ、利用者が昔食べてなつかしいもの（ふなやき、いも、てんぷら）
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	コーヒーが好きな方、飴玉が好きな方、焼酎、オロナミンＣ（自販機に買いに行く）、食べたいお菓子、果物（いきつけの八百屋）		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレでの排泄を目指している。		10か月間に亘り、利用者本人の状態等を勘案しながらケアウランで残存能力を活かすように常時オムツ使用から日中オムツはずしを試みる。
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉がいつでもでるので、一応3/週は決めているが、毎日の方も希望があればいつでもできる。（冬と夏は入れ方を少し変える。）		汗の出るようなことをした後、職員も一緒になって入る。
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ほとんど良眠である。眠れない方の原因をさぐり対応している。病院にも報告している。電気をつけたままで寝てもらう。冷暖房の調節一人ひとり違う。		直射日光が入らないように遮光カーテンを使用している。

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
（３）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味（習字、裁縫、絵）園芸（種植え、草取り、収穫）、カラオケ、レクリエーション	○	研究中
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在２名の方が常に持っていて自由に使う。使うときまで預かっている方２名。使おうとされないが特別な外出をしたときに使う方など、いつでも使えるようにしている。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	苑の周り、花壇や菜園、プランターなど外壁の内側には自由に出入りされるようになっている。	○	
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	4月花見、5月ゆり、6月菖蒲、10月ひまわり、11月紅葉（予定）、誕生者には外食（山賊鍋、五風、旬月）、地域の老人クラブのレクリェーション大会。	○	もっと連れて行きたい。
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じてほとんどは苑の電話を使用して頂いている。家族の方からの電話も取り次ぎ自由にやり取りできる。葉書もよく出されるので支援している。		家族に電話して「持参してもらいたいものがある」と常に依頼される方がおられだいたい連絡をとることで精神的安定を図っている。
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	面談室はないが、季節やその時に応じて自室であったりリビングだったり、ゆっくりくつろげるように準備をしている。		

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
（４）安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	できるだけ自由がモットーです。拘束はないと思っています。	○	これからも拘束はしない。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	フェンスで囲まれていてフェンスのみ出入り口に鍵がある。その他は鍵がある所はない。居室には時々鍵を掛けないと納得しない方もいる。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人ひとりの個性に合わせて見守り、対応している。夜間は自分で中から鍵をかけられる方もいるが、スペアを用意して緊急時など対応できるようにしている。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の中には手芸等に興味があり縫物、作品作成時使用する刃物（鋏）を自ら保管している。一時期精神不安定となられ一時預かり行うも返って反発され、より不安定になられた為家族、本人職員を交えて話し合い本人が保管時も細心の注意を払い使用時、使用後の保管場所等、注意することの取り決めを行った		本人が家族に「切れ味が悪い」と訴え複数になると管理も難しい。危険も増す為使用不可の物は持ち帰って頂いたり、危険がないように職員も物品の使用状況を確認し把握に努めている。職員に黙って本人に渡す場合もあるので、家族にも十分、協力頂くよう納得されるまで説明している。
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	体動が激しい方には危険を予測すること。行方不明になりやすい方には常に所在確認。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成しているので、スタッフが常に覚えていくよう努力する。訓練は今年やっていない。	○	訓練が必要だと思う。

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に２回は消防署の指導をうけている。地域の方とは行っていない。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	面会に来られた時などに出来る限り状況を説明している。		
（５）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	変化に気づくのは皆大変早いので、病院に行ったり検討して、良い対応を行っている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の内容はきちんとすぐわかるようにして覚えるようにしている。	○	勉強会をしたいと思っている。
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事の中に取り入れる献立を作っている（詳しい勉強はしていない）	○	講習会に行く予定。下剤を使うことがなくなった。
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後うがい、入れ歯洗いをして一週間に一回ポリデントにつけて洗浄する。		

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の量、食事の量、栄養のバランス、嗜好、食べ方等それぞれ把握している。月に一度、同施設の栄養士にチェックしてもらっている。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の収り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	白癬は毎日の軟膏塗り、手洗い励行、職員も風邪とあなどらず早めの治療を行い、休養をとっている。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日台所の清掃当番を決めている。食材の保存にも食材の鮮度を保つように置く場所にも注意している。月一回在庫調べをして買い物に行っている。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（１）居心地のよい環境づくり**					
82	—	○　安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	グループホームの所在をアピールできるようにプランターの花植えを置いている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節を感じるような掲示物をしている。居間も広くゆったりとして台所もつながっているので、いつも利用者の顔が見える。トイレの床がセメントなので心配である。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーを３つ用意してゆったりと落ち着いてそれぞれの場所でくつろいでいける。		

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	鏡、写真、時計、カセット、小物入れ、書き物。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝早くから換気を行い、寒がりの程度もよく把握して調節している。		
（２）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内には手すりがない。リビングが広い。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの行動をよくみて予測介護を目指している。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダから花壇のある庭へ続いているのでよくそこで日光浴をしたり、ごはんを食べたりしている。漬物付けをしたり、らっきょの皮むきをしたり、その他いろいろ出来る。	○	ベランダに屋根がほしいと思う。

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
Ⅴ　サービスの成果に関する項目				
90	―	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の２／３くらいの
				③利用者の１／３くらいの
				④ほとんど掴んでいない
91	―	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
				②数日に１回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
92	―	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
93	―	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
94	―	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
			○	③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
95	―	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
96	―	○利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんど掴んでいない

福岡県　ＧＨ第２敬和苑
ユニット阿蘇

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
97	―	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の２／３くらいと
				③家族の１／３くらいと
				④ほとんどできていない
98	―	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている		①ほぼ毎日のように
				②数日に1回程度
			○	③たまに
				④ほとんどない
99	―	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
100	―	○職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の２／３くらいが
				③職員の１／３くらいが
				④ほとんどいない
101	―	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
102	―	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の２／３くらいが
				③家族等の１／３くらいが
				④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

毎月外出し季節感を味わって頂く事と外食を行うこと

福岡県　ＧＨ第２敬和苑
ユニット雲仙

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
【Ⅰ　理念に基づく運営】					
１．理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	安全で安心できるケア 温かいまなざし、言葉のケア 敬う心で和やかな暮らしを提供すること		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝夕の申し送りで唱和している。広報に載せる。	○	勉強会で反省及び実践したことを発表し検討する。
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	広報を出して（1/2ヶ月）理解を求めている。	○	毎月できればよい。
２．地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	同敷地内に足湯があり地域のみなさんが移り変わり来てあるので、できるだけふれあっていけるようにしている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	月に一度はふれあい、交流できるようにしている。 ボランティアの慰問。	○	地域の方々と老人会、行事、活動にもっと参加したい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	足湯の環境を整え清潔に保ち、気持ちよく過ごせるようにしている。（毎朝・夕の掃除、温泉の開閉など。）		

福岡県　ＧＨ第２敬和苑
ユニット雲仙

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
３．理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	地域との交流、利用者の感受性、理念が浸透しているか、笑顔で元気があるか、特に利用者の変化には良く気がついている。	○	外部評価について話し合う時間を持ちたい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	２ヶ月毎に状況をアルバムにして説明して報告をし、地域の方々の行事予定を聞き参加できること、支援して頂くことなどを話している。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のみ参加して頂いている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、主介護者が明確であり、家族で行っている。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関適法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	言葉での虐待にならにようにしている。 ①目上から話さない ②はじめは大きな声にならないように	○	尊敬語で話したいが、利用者との会話でうまくかみ合わない。
４．理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	安心されるようにできるだけ詳しく説明をしているし、質問には正確に答えている。		

福岡県　ＧＨ第２敬和苑
ユニット雲仙

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とのコミュニケーションの中で、不満苦情等を聞き取り、寮母会議等で報告しあい検討している。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時にはその都度、状況暮らしぶり等を報告し、心身の状況等は個別に連絡し２ヶ月に一回苑だよりとして発行している。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、家族からは随時、不満や不安等は電話連絡等で受け付けている。		意見や電話での不満、苦情があった場合は書面に残し検討していく。
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の寮母会で意見を出し合い業務会議等で報告する。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事などでは自発的に公休の職員からのボランティアは当たり前に行動できているので、家族の状況や緊急時には誰でも勤務の変更などできている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	決められた資格者が配置される必要があるとき、退職された後の補充のときに心配するが利用者の状況をみて、その為の影響があるかを観察している。	○	移動してもダメージを防ぐ為に何をどうしたら良いか検討する。

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	当施設で働くことが楽しく意欲が持てるように話し合い中心にしている。		介護職未経験者が入社、若年者で数回転職しており、２日目で辞めたいと言う。職員全員で頑張るように説得、どこで働いても通用するようになるまで皆で見守り、指導することで納得し、今も在籍中である。
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	差別など普段から考えなければならないような環境ではない。常に利用者、家族の立場になって活動し、議論している。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体本部で１か月１回勉強会、グループホーム内で１か月１回勉強会、福岡県社会福祉協議会、福岡県高齢者福祉課、介護保険広域連合柳川支部等での講演、研修に参加している。		講演、研修参加後は報告書作成する。内容についても毎月１回母体本部で報告の機会を設け職員の前で発表する。聞いている職員も勉強会ノートに筆記し感想を書き提出する。グループホームでは翌日申し送りノートや朝礼時に報告することで全職員が把握し学ぶ機会となっている。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行っていない。 研修会や指導会のおりに会話を持っているのみ。		他の施設（グループホーム）とも交流出来るよう検討する。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	他職員から情報が入ったら本人と話をしたりそれとなく声かけしてねぎらう。職員の動作顔色など観察している。		職員同士で出来るだけ悩みを言い合ったり聞いたりしている。（カラオケやバーベキューなど）
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	常々朝礼（毎月1日）勉強会の時に指導がある。		入居者で危篤状態になられ病院受診するも本人家族共、入院拒否された為グループホームで２週間の手厚い看病した。現在、回復して以前と同じ生活をしている。職員の利用者を思う気持ちと努力の結果だと自負している。

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
【Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前には何度でも見学に来ていただき、不安等があれば必要に応じて体験入所も出来るシステムを設けている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者とは個別に面接し家族の不安、要望にいつでも応じられる。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族のニーズに合わせ、施設内の他のサービス機関の利用も提供できる。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族に毎月通っていただいたり、一回帰宅して安心してもらったりしている。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に畑仕事をし、収穫した野菜等で漬物の漬け方や料理を学んだりして一緒に作り、食べ、生活を共にする。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を密に行い、苑での行事等にはその都度招待し、参加していただく。		

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と密に連絡を取り両者の要望を取り入れ、よい関係を築いていけるよう努めている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員ではないが今まで配達してもらっていた八百屋さんとの交流をできる機会を持っている。 知人、友人が面会にこられたら歓迎する。 前の施設の方々に知り合いがこられたら会いに出かけたり（兄弟の面会をされたり）		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	職員が一人ひとりの個性を十分に把握し、その人の持ち味を発揮できるよう席替えを行ったり声かけを行ない、支援している。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	途中退苑がいままでにない。		今後、家族との年賀状でのご挨拶等に取り組んでいきたい。母体本部に在宅介護支援センターがありソーシャルワーカーが行政と連携をとりながら訪問等で地域の方の情報収集をし相談等にも応じている。
【Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】 **１．一人ひとりの把握**					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者に対して担当者を決めており目配り、気配りし本人の意向を世間話等しながら把握に努めている。本人に確認不明瞭の場合は家族の面会時に意見を伺ったり申し送りや勉強会で検討の場を設けている。		起床時間は本人のペースに合わせて支援している。朝食もその方の体調やペース合わせ時間、場所もリビングや居室等配慮し行っている。
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	グループホームと隣接し足湯（無料）を一般の方に開放しているので利用者を引率し利用すると友人、知人とよく出会い昔話や現況を話す機会となっており介護者も会話に加わりご本人の過去の生活暦や仕事内容を聞き本人の興味の持てるものを検討する情報源となっている。本人の残存能力を引き出すように繋げて対応していきたい。足湯まで誘導できない方もおられ足湯の帰りにでもグループホームに立ち寄って頂くよう声掛けを行っている。		

福岡県　ＧＨ第２敬和苑
ユニット雲仙

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝夕の申し送りでその日の様子、体調などを記録して読み、詳しく知らせている。個人記録にはもっと詳しく記録している。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	職員のほとんどから意見を聞き、今これからに向けて役に立つことや体力アップになること、この施設で生活することに満足していただけるように家族の意見も聞いて策定している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入院等や状態の変化が生じた場合は本人、家族、医師、看護師、介護者と話し合いを持ちできればサービス担当者会議を開催した上で新規作成を行っている。		できれば三ヶ月で見直したいが、作成できる職員の指導がまだ途中である。
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録とチェック表にも記録してモニタリングに活用している。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	特老（3ヶ所）、有料、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ（2ヶ所）ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽ、居宅、ｹｱﾊｳｽと所有しているので状況によって配慮している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	徘徊で警察・消防、民生委員は運営会議・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ慰問・公民館での老人会行事のときに協力してもらっている。		

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	行っていない。		隣接している有料老人ホームとの話合いで行事に参加するようにしている。
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要とされる利用者がいない為していない（母体事業所には居宅介護支援センターや訪問介護事業所もあり協働関係をとっている。）		今後、必要性がでてきた場合は連携をとり協働を図る。
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医院（3医院）、希望医院（5医院）、緊急病院（3病院）適切に対応している。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	その必要がある方（現在では5名）が専門医院で治療を受けている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同敷地内の有料老人ホームの方に緊急なとき必要であれば看てもらえるようにしているが、全利用者の把握が出来る交流は行っていない。		危篤状態の方を看ていた時、主治医Dr.への状態報告を行い隣接している有料老人ホームの看護師より指示を受けて治療したことがある。
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族との連絡は詳しく行い、職員が様子をみに面会に行き、状況を報告し対応している。		利用者が入院された時、遠方の家族の方だった為、密に電話連絡し頻回に病院に出向き家族へ繋いで報告し便宜を図る。

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と練り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在2名の方の家族と確実に訪れることを想定して、細かに確認をとっている。主治医にも話している。		以前から状態の変化があっても入院はしないと聞いていた家族がおられ急変状態になった時、家族の希望本人の希望（職員の推定）職員の希望と対応についてスタッフ全員で終末期を迎えた場合の話し合いを行い、看病にも気持ちが通じていた。
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	日常生活の場がグループホームであり「ここが家であり、最後はここで看取って欲しい」と言われる家族がおられるので細かく家族と相談し意思の疎通を図り状態を逐一報告している。		危篤状態になった方を職員の団結とチームワークで、できるだけ苦しまれないように心がけて看病した。
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ほとんどない。		利用者にとっては施設には逆療法になるような方を自宅で生活できるようにしたい。
【Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】 **１．その人らしい暮らしの支援** **（１）一人ひとりの尊重**					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	十分注意しているが、やはり時々寮母会議で取り上げることがある。		寮母会議やその場面で、気がついたときにお互い注意し合えるようにしたい。後で問題になっている。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来るだけ本人がしたいようにしてあげたいことを基本にして介助するように行っている。		就寝、起床は自由。食事、形体、好き、嫌い、お酒も飲んでおられる。
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	第一に心がけている。その方のペースに合わせて。		どうしても全部はかなえられない部分を考え直していきたい。

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
（２）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容はその方にあったようにきつく注文をしている。3名の方は係りつけに行っている。		厚着や薄着が目に余るときや着方が変になっているときなどは、声かけして直してあげる。
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえまではできる方、切り刻みまで出来る方、スープのルーなど混ぜられる方など、出来るだけ多くの方と一緒に作るようにしている。	○	魚の処理、漬物付け、らっきょ、利用者が昔食べてなつかしいもの（ふなやき、いも、てんぷら）
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	コーヒーが好きな方、飴玉が好きな方、焼酎、オロナミンＣ（自販機に買いに行く）、食べたいお菓子、果物（いきつけの八百屋）		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレでの排泄を目指している。		10か月間に亘り、利用者本人の状態等を勘案しながらケアプランで残存能力を活かすように常時オムツ使用から日中オムツはずしを試みる。
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉がいつでもでるので、一応3/週は決めているが、毎日の方も希望があればいつでもできる。（冬と夏は入れ方を少し変える。）		汗の出るようなことをした後、職員も一緒になって入る。
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ほとんど良眠である。眠れない方の原因をさぐり対応している。病院にも報告している。電気をつけたままで寝てもらう。冷暖房の調節一人ひとり違う。		直射日光が入らないように遮光カーテンを使用している。

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
（３）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味（習字、裁縫、絵）園芸（種植え、草取り、収穫）、カラオケ、レクリエーション	○	研究中
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在２名の方が常に持っていて自由に使う。使うときまで預かっている方２名。使おうとされないが特別な外出をしたときに使う方など、いつでも使えるようにしている。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	苑の周り、花壇や菜園、プランターなど外壁の内側には自由に出入りされるようになっている。	○	
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	4月花見、5月ゆり、6月菖蒲、10月ひまわり、11月紅葉（予定）、誕生者には外食（山賊鍋、五風、旬月）、地域の老人クラブのレクリェーション大会。	○	もっと連れて行きたい。
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じてほとんどは苑の電話を使用して頂いている。家族の方からの電話も取り次ぎ自由にやりとりできる。葉書もよく出されるので支援している。		家族に電話して「持参してもらいたいものがある」と常に依頼される方がおられだいたい連絡をとることで精神的安定を図っている。
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	面談室はないが、季節やその時に応じて自室であったりリビングだったり、ゆっくりくつろげるように準備をしている。		

福岡県　ＧＨ第２敬和苑
ユニット雲仙

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
（４）安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	できるだけ自由がモットーです。拘束はないと思っています。	○	これからも拘束はしない。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	フェンスで囲まれていてフェンスのみ出入り口に鍵がある。その他は鍵がある所はない。居室には時々鍵を掛けないと納得しない方もいる。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	一人ひとりの個性に合わせて見守り、対応している。夜間は自分で中から鍵をかけられる方もいるが、スペアを用意して緊急時など対応できるようにしている。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の中には手芸等に興味があり縫物作品作成時使用する刃物（鋏）を自ら保管している。一時期、精神不安定となられ一時預かり行うも返って反発され、より不安定になられた為、家族、本人、職員を交えて話し合い本人が保管時も細心の注意を払い使用時、使用後の保管場所等注意することの取り決めを行った		本人が家族に「切れ味が悪い」と訴え複数になると管理も難しい。危険も増す為使用不可の物は持ち帰って頂いたり、危険がないように職員も物品の使用状況を確認し把握に努めている。職員に黙って本人に渡す場合もあるので家族にも十分協力頂くよう納得されるまで説明している。
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	体動が激しい方には危険を予測すること。行方不明になりやすい方には常に所在確認。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成しているので、スタッフが常に覚えていくよう努力する。訓練は今年やっていない。	○	訓練が必要だと思う。

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に２回は消防署の指導をうけている。地域の方とは行っていない。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	面会に来られた時などに出来る限り状況を説明している。		
（５）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	変化に気づくのは皆大変早いので、病院に行ったり検討して、良い対応を行っている。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の内容はきちんとすぐわかるようにして覚えるようにしている。	○	勉強会をしたいと思っている。
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事の中に取り入れる献立を作っている（詳しい勉強はしていない）	○	講習会に行く予定。下剤を使うことがなくなった。
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後うがい、入れ歯洗いをして一週間に一回ポリデントにつけて洗浄する。		

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の量、食事の量、栄養のバランス、嗜好、食べ方等それぞれ把握している。月に一度、同施設の栄養士にチェックしてもらっている。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の収り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	白癬は毎日の軟膏塗り、手洗い励行、職員も風邪とあなどらず早めの治療を行い、休養をとっている。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日台所の清掃当番を決めている。食材の保存にも食材の鮮度を保つように置く場所にも注意している。月一回、在庫調べをして買い物にいっている。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（１）居心地のよい環境づくり**					
82	—	○　安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	グループホームの所在をアピールできるようにプランターの花植えを置いている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節を感じるような掲示物をしている。居間も広くゆったりとして台所もつながっているので、いつも利用者の顔が見える。トイレの床がセメントなので心配である。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーを３つ用意してゆったりと落ち着いてそれぞれの場所でくつろいでいける。		

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容）	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む）
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	鏡、写真、時計、カセット、小物入れ、書き物。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝早くから換気を行い、寒がりの程度もよく把握して調節している。		
（２）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内には手すりがない。リビングが広い。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの行動をよくみて予測介護を目指している。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダから花壇のある庭へ続いているのでよくそこで日光浴をしたり、ごはんを食べたりしている。漬物付けをしたり、らっきょの皮むきをしたり、その他いろいろ出来る。	○	ベランダに屋根がほしいと思う。

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
Ⅴ　サービスの成果に関する項目				
90	―	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の２／３くらいの
				③利用者の１／３くらいの
				④ほとんど掴んでいない
91	―	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
				②数日に１回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
92	―	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
93	―	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
94	―	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
			○	③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
95	―	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
96	―	○利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんど掴んでいない

福岡県　ＧＨ第２敬和苑
ユニット雲仙

地域密着型サービス評価の自己評価票　（網掛け部分は外部評価の調査項目）

項目番号 自己	項目番号 外部	項目	取り組みの成果（該当する箇所を○印で囲むこと）	
97	―	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の２／３くらいと
				③家族の１／３くらいと
				④ほとんどできていない
98	―	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている		①ほぼ毎日のように
				②数日に1回程度
			○	③たまに
				④ほとんどない
99	―	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
100	―	○職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の２／３くらいが
				③職員の１／３くらいが
				④ほとんどいない
101	―	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の２／３くらいが
				③利用者の１／３くらいが
				④ほとんどいない
102	―	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の２／３くらいが
				③家族等の１／３くらいが
				④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

毎月外出し季節感を味わって頂く事と外食を行うこと